＜要望書抜粋＞

第１３９回日商簿記試験の第１問の１に関しての解答公開の要望です。
個別の問い合わせには応じないという前提だと思いますがあえて質問させて頂きます。

＜1＞
既存の工場の増設工事について、３回に分けて各￥10,000,000 を分割支払いする建設工事契約を締結しそれぞれ建設仮勘定に計上している。これが完成して最終回の支払いを当座預金から行い、また、建設工事代金の総額￥30,000,000 を、建物と既存の修繕費￥800,000 に**振り替えた**。

①過去に２回　建設仮勘定 10,000,000／現預金 10,000,000 の仕訳を行っている
②最終回の支払：建設仮勘定 10,000,000／当座預金 10,000,000
③振替　　・建物 29,200,000／建設仮勘定 30,000,000
　　修繕費 800,000
　このような流れの設問だと認識しております。たくさんの受講生から問合わせを頂いているのは「下記仕訳では間違いなのか」という事です

建物 29,200,000／建設仮勘定 20,000,000
修繕費 800,000／当座預金 10,000,000

弊社の見解では仮勘定はあくまでも仮（集計）勘定であり（厳密には建設中のために使用できない資産と、完成して利用できる資産を区別する科目）、この設問の主旨は最終的な振替先科目だと考えております。従って、＜借方建物 29,200,000、修繕費 800,000＞の結果が元帳や試算表、さらには決算報告書に反映すればいいわけで、建設仮勘定は元帳上その消込が確認できれば十分だと思われます。従って建設仮勘定を相殺した先の仕訳でも正解だと認識しています。

設問間の整合性からも考えてみました。

2.広告用看板の掲示に関する契約を締結し、今後 3 年分の広告料金￥27,000,000 を普通預金から支払って**その総額をいったん資産に計上し、さらに**計上した資産から当月分（1 か月分）の費用**の計上を行った**

この問題は明確に、「相殺してはならない」という指示だと認識できますが、1 に関しては明確な相殺禁止の指示はありません。この点からも 1 に関しては相殺した仕訳でも間違いではないと考えております。

今後の受講生に対する説明をしっかり行う為にも商工会議所の方で別解ありかどうかをホームページ等で掲載頂ければ幸いです。